

RubyWorld Conference 2014「オープニング・セレモニー」

H26. 11. 13(木)

「RubyWorld Conference」に、全国から、また海外からも多くの皆様にお越しいただき、心から感謝申し上げます。「RubyWorld Conference」がこのように盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

この「Conference」は、今年で6回目となり、今年も、約1,000名もの多くの方々にご参加をいただいています。

経済産業省をはじめ協賛機関や、参加者の皆様には、開催に当たりご支援いただき、心から感謝申し上げます。

島根県は、松江市とともに、Rubyの普及に努め、IT産業の振興に取り組んでおります。

私もかつて、IT産業が盛んなインドのバンガロールや、アメリカのサンノゼなどを訪れたことがあります。そうした所は、緑の豊かな美しい都市でした。

その際、ITなど根をつめる知的な仕事は、仕事の合間に心を開放できる、そうした緑が多く自然が豊かな所であるのが良いということを感じたことがあります。

島根には、中海・宍道湖などの豊かな自然や新鮮な食材、古き良き文化が残っております。松江をはじめ島根をIT産業の一大集積地とするよう取り組んでおり、例えば、IT企業経営者向けの県内視察ツアーを実施するなど、企業誘致を積極的に進めています。

全国的にIT人材の不足が深刻化する中、中学生・高校生など次世代を担うエンジニアの育成や、都会地からの人材誘致などに力を入れております。

特にRubyについては、県内IT企業の皆様と一緒に、Rubyを使ったソフト開発などビジネス利用の拡大を進めています。

こうした取り組みにより、近年、県外企業が島根に拠点を設置されることが増えてきました。元々、島根には、70社ぐらいIT関係の企業があり、ここ数年、30社近くの企業が立地し、100社に近いIT企業の集積ができつつあります。今年も6社の企業進出が見込まれています。

今後も企業の集積が進むことで、島根が様々な情報交換ができる場所となることを期待しております。

Rubyについても、島根県は、松江市とともに、一般財団法人Rubyアソシエーションを通じて、更なる成長を支援して参ります。

終わりに、今回の「Conference」が、皆様にとって実り多きものとなりますとともに、「Ruby」のさらなる発展にご参加いただいた皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げ、歓迎のご挨拶といたします。